

(1) 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」）第26条により、全ての教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないことになっています。本報告書はこの法律に基づいて作成したものです。

(2) 評価結果（教育委員会の自己評価）

平成29年度の主要施策を(3)の評価基準により点検評価を行った結果は、次の表のとおりです。
(各課・施設の評価の詳細については(6)に掲載)

| | A | B | C | D | E | ○ | △ | × |
|---------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|-----|------|
| 学務課 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 | 0 | 0 |
| 給食センター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 生涯学習課 | 21 | 12 | 3 | 1 | 2 | 7 | 0 | 0 |
| 中央公民館 | 20 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 西公民館 | 21 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 東公民館 | 16 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 図書館 | 10 | 4 | 1 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 |
| 郷土資料館 | 10 | 3 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 生涯教育研究所 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 107 | 27 | 6 | 1 | 2 | 45 | 0 | 0 |
| % | 74.83% | 18.88% | 4.20% | 0.70% | 1.40% | 100.0% | 0.0 | 0.0% |

なお、学務課と給食センターを除く事業評価については、平成30年5月15日に開催の別海町社会教育委員の会議・公民館運営審議会です承されたものです。

(3) 評価基準

評価及びその基準を次のとおりとしました。

・ソフト事業（対人の事業）

- A 事業を完全に実施し、目標を達成した。（100点）
- B 事業を実施し、十分な実績を上げ、目標をおおむね達成した。（75点）
- C 事業を実施し、ある程度の実績を上げ、ある程度の効果があった。（50点）
- D 事業に着手したが、あまり実績が上がらず、効果も薄かった。（25点）
- E 目標達成のための事業をまったく実施しなかった。（0点）

・ハード事業（対人以外の事業）

- 事業を実施した。
- △ 事業の一部を実施した。
- × 事業を実施しなかった。

(4) 点検評価委員会の概要

地教行法第27条第2項「教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする」に基づき点検評価委員会を設置し、委員を次の方に委嘱しました。

- ・元別海町教育委員会指導主幹 楠瀬 功 氏
- ・別海町社会教育委員長 青野 芳樹 氏

(5) 点検評価委員会の総評

点検評価委員会は、教育委員会各課・施設の平成29年度事業実績を基に、平成30年5月31日に教育委員会各課・施設のヒアリングを実施し、協議を行いました。その結果、以下のように総評されました。

・昨年度の点検評価委員会における指摘に対する報告

| 番号 | 点検評価員会議からの指摘内容 | 報 告 |
|-----|---|---|
| (1) | 小学生期や中学生期に読書習慣をつけることは、人間が豊かに生きていく上で欠くことのできない一番大事なところであり、今後とも学校図書の整備を進めていってほしい。 | 学校図書整備については、平成30年度から平成40年度までに、平成29年度通常学級数を基準として、各学校の図書標準冊数を全校100%以上とする方針を委員会内で確認している。 また、この目標達成のために本年度は各学校の蔵書率の低い学校に対して、予算を重点的に配分し学校図書の整備充実を図っていきたいと考えている。 |
| (2) | いじめ・不登校問題対策事業について、相談件数と学校訪問件数だけを評価指標にすると、正しい評価ができない恐れがある。 | 事業評価にあたり、相談件数と学校訪問件数を評価指標とすることには、適切な事業の評価としては疑問の点はあるのかと感じている。 しかし、本事業の評価を行うにあたり、評価指標を何とするのかについては、何時どのような時点においても、児童生徒に即対応出来る体制を維持していくことが、本事業の取り組んでいる目的でもあるので、今後は開設状況を指標とするなどの検討を行いたいと考えている。 |
| (3) | 現場の声をメニューに反映できるよう、給食センター・栄養教諭・学校の連携をより一層密にしてほしい。 | 栄養教諭が中央小学校はじめ、各学校を回った際に直接現場の声を聴き、献立の参考にしている。 |
| (4) | 別海高校生が作った野菜が給食に使われれば、町内の子どもたちに食べてもらっているということで高校生の励みになる。素晴らしい取り組みであるので、どんどんPRして行ってもらいたい。 | 別海高校の野菜は今年度から規模縮小し、生産量や作物品種が減ることなので、提供可能な数量のみを購入する予定である。 また、高校から購入した野菜での献立の日の給食は、生産収穫した高校生が小学校で一緒に食べる予定である。 |

| | | |
|------------|--|---|
| <p>(5)</p> | <p>ソフト事業でD・E評価が見られる。周知の仕方を工夫したり、早めに調整したりするなど、できるだけ未実施にならないようにするのが望ましい。</p> | <p>(E評価)</p> <p>「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」については、支援事業関係の研修会に参加をし、放課後子ども教室の実施について前向きな方との面談を行うなどしたが、実施までにはいたらなかった。今後、各公民館と連携するなどして、平成30年度は尾岱沼地区から協議を進めたいと考えている。</p> <p>「別海町子ども会リーダーのつどい」については、8月に1泊2日で実施した。参加者からはよい評価をもらったが、参加人数が少なかったため評価は、Bとした。</p> <p>「旧光進小中学校校舎等利活用事業」については、利活用事業の利用は無かったものの、テレワーク及び移住・定住事業での利用はあり、実際に利活用事業の申し込みがあったとしても宿泊棟が利用できない状態にあった。宿泊棟については、現在もほぼ満室の状態で行われているため、移住・定住等の事業を実施している担当課と協議の上、平成30年度については、宿泊棟を利用した利活用事業については実施しない方向で考えている。</p> <p>(D評価)</p> <p>「子ども読書活動推進計画の策定」については、平成30年3月に策定を終えた。今後は、策定した計画を遂行していくように努める。</p> |
| <p>(6)</p> | <p>歴史文化遺産認定事業の評価指標が登録数だけでは、正当な事業評価は難しい。もう少し柔軟な評価指標によって評価すべきである。</p> | <p>別海町歴史文化遺産認定事業の評価指標については、指摘を受けて平成29年度から新たに「候補物件のリストアップ状況」を指標に加え、より多面的に評価できるようにしている。</p> |
| <p>(7)</p> | <p>ふれあいトークのある講座の評判がとてもよかった。是非もっと活用する手立てを考えてほしい。校長会にだけ投げかけても、現場の先生たちにはなかなか伝わらない。役場の仕事を子供達や地域の人に知ってもらう意味でも、とてもよい事業である。</p> | <p>「ふれあいトーク宅配講座」は、校長教頭会での説明の他、全ての教員が確認できるデータベース（スクールウェア）への登録をしている。</p> <p>また、ホームページ、広報別海にも掲載している。平成29年度は介護関係、ごみの分別など生活に身近な講座の希望が多くあり、一般住民を含め広く認識されているものと考えているが、今後も、更に周知に努める。</p> |
| <p>(8)</p> | <p>文化功労者表彰（評価B）とスポーツ功労者表彰（評価A）、文化活動団体育成支援事業（評価C）と体育協会への支援（評価A）の評価の違いがなぜ生じる</p> | <p>文化功労者表彰とスポーツ功労者表彰事業については、評価指標が「表彰実施の有無」となっており、表彰を行ったことにより、事業を完全に実施し目標を達成したと評価するか、目標を概ね達</p> |

| | | |
|------|--|---|
| | <p>のか、どのような事業にすればAになるのかがわかりづらいところがある。</p> | <p>成したと評価するかによって評価に違いが生じている。同じ指標なので統一するのが望ましいが、これまでの評価の比較もあるので、第4次中期振興計画策定時に統一したいと考えている。</p> <p>また、文化活動団体育成支援事業と体育協会への支援の評価の違いについても、評価指標が「補助金等情報の提供実施の有無」と「事業数」になっており、評価の指標が違うため違いが生じている。こちらについても、第4次振興計画策定時に統一したいと考えている。</p> |
| (9) | <p>別海町青年団体協議会は根室管内で唯一の青年団体であり、今後も存続して欲しい。年度当初に的確な指導助言を充分に行い、事業が実施できるようにしてもらいたい。</p> | <p>「別海町青年団体協議会」は、現在、中西別、上風連の2単位会、個人会員で構成されており、平成20年度頃をピークに活動内容・会員数ともに下降傾向が続いている。</p> <p>また、一定程度の活動内容を維持している2単位会も同様の傾向にあるので、多くの事業を実施するのは困難な状況にある。今後も、別青協の望む活動が実施できるよう引き続き指導・助言していき、青年が社会教育活動に取り組めるよう進めて行きたいと考えている。</p> |
| (10) | <p>別海から進学や就職で町外に出て行った子どもたちが、自分は別海で育てられた、地域の大人たちに育てられたという感謝の気持ちをもつことは、故郷に誇りをもつ気持ちや、生き方にも繋がっていく。各公民館は、学びの木に示された発達課題に対応した様々な事業を通じて、その役割を立派に果たしてくれている。</p> | <p>乳幼児母親家庭教育学級「すくすく学級」では0～3歳までの子供を持つ母親の学習の場として学習会を開催しているが、学級開設の目的は「別海町の『学びの木』における乳幼児期の発達課題に基づき、未来に向かってたくましく生き抜く子供を育てるために、母親自身が育児に関する知識を習得し、実生活に役立てることにより、より良い子育てと家庭を創造することとしている。毎月の学習会については「学びの木」の乳幼児期（0～3歳）までの発達課題やより重点的に取り組む発達課題を取り入れ計画を立てている他、特別学習会では、中学生や高齢者との交流も見られる。</p> <p>アドベンチャースクールやアドベンチャースクールjrについては、学校や家庭では体験できないような事業を公民館が実施することで、「自然とのふれあい」、「友達と協力しあう」など、「学びの木」の小学生期で課題として挙げられている内容に沿った形で事業を実施している。</p> <p>平成寿大学についても、組織的な学習の機会を提供することで、学生は豊かな経験、知識を</p> |

| | | |
|------|---|--|
| | | <p>得られ、それらが社会的活動に参加する喜びと生きがい意識を高め、結果として社会への還元につながっていると考える。</p> <p>成人講座やリクエスト講座についても、青年期、成人期が教養を高めるための学習の場として実施しており、「学びの木」の課題に沿った事業と位置付けている。</p> <p>これらの事業以外にも様々な事業を実施しているが、乳幼児から高齢者まで、あらゆる年代の学習や文化活動の拠点の場として引き続き事業を展開するとともに、人づくりの一旦を担うべき役割を持っていることを念頭に置き、今後も事業を実施していきたい。</p> |
| (11) | <p>家庭教育学級は、非常に苦しい中で企画せざるを得ない状況であり、事業のあり方について検討してほしい。</p> | <p>平成29年度は、上西春別保育園の保育参観時に合わせ、「子どもの生活習慣と睡眠について」と題し、「生活リズム」や「外遊びが脳や体を鍛える」などについての学習を企画・実施した。</p> <p>育児に役立つ内容であり、園行事に併せた開催方法や時間設定なども好評価を得ており、今後も幼稚園やへき地保育園での開催を予定している。</p> |
| (12) | <p>「私の伝えたいこと」は、西公民館から始まった事業であるが、大変よい事業であり、今後もずっと続けてほしい。また、子ども達に聞かせるような機会を今後も設けてほしい。</p> | <p>平成19年度から実施している本事業は、近年、子ども体験塾とのふれあい交流の中で実施しており、本年度も実施を予定している。</p> <p>戦後70年が過ぎ、戦争が遠い過去となった現在において、次代に語り継ぐ貴重な場ではあるが、語り手（戦争経験者）が減少しており、継続的な実施に向けて話すテーマや開催方法等を検討していきたい。</p> |
| (13) | <p>地元出身の別海高校生の作品を展示したことで入館者が増えたが、取り組みの視点を工夫・改善することで、プラスに繋がった好例である。</p> | <p>平成29年度においても、文化祭等の展示では、尾岱沼出身の別海高校生作品の展示、また、間接照明や音楽を流すといった展示の工夫を行うなどを実践してきた。</p> <p>これによって、地域出身者の活動や成長が作品を通じて確認でき、また、視点によって見方が変わる芸術作品の新たな発見に興味を持つ人など、鑑賞者の増加につながったことから、今後も継続して事業を展開していきたい。</p> |
| (14) | <p>読書は人間形成に大きな力を発揮し、学力向上の土台ともなる。ハード面はとて充実しているの、是非色々な機会</p> | <p>今後も、学習資料提供や各学級への団体貸出の継続を実施するとともに、読書活動推進のため図書室改造・整備に協力していく。</p> |

| | | |
|------|--|---|
| | を利用して、各学校での読書活動を推進してもらいたい。 | |
| (15) | お金がかからないような方法で、郷土資料館のプロモーション動画のようなものを作成し、敬老会などで上映してみてはどうか。 | <p>現在、所蔵資料として別海村・別海町が制作した16mmフィルムをDVD化したものがある。既に老人ホーム、デイサービスセンター、各町内会の希望に応じて上映・貸し出しを行っているところである。</p> <p>さらに、こうした映像資料の発掘を行い、複写・DVD化を行うとともに、昭和初期の写真資料についてもスライドショーなどを制作し、上映・貸し出しできるよう努力したい。</p> <p>また、町ホームページのリニューアルに伴い、動画なども投稿できるようになったことから、動画の制作を検討しているところである。</p> |

以上の報告については、指摘内容に対する適切な改善方策・検討を行っていると考える。

各課・施設の自己評価については概ね適正だが、報告書の実績報告には、評価が下がった場合にその原因が分かるよう表示する等、工夫が必要である。

各事業については、教育委員会内の各課、施設間での連携や、地域や学校と連携を図り、充実した内容で実施していただきたい。

以下に、点検評価手法や事務・事業の内容についての意見を列挙します。

(学務課)

- ・いじめ、不登校対策について、早期発見のための調査や、ふれあいる一むの取組は今後もぜひ継続していただきたい。

(給食センター)

- ・食べ残しが少なくなるように、関係者できめ細かに連携して対応することが望ましい。
- ・子供達が給食の時間を待ち遠しいと思えるような給食を続けていただきたい。

(生涯学習課)

- ・子供の読書活動について、学校図書整備のほか、小学校から中学校までの継続した取組みや、図書館との連携により、さらに推進していただきたい。

- ・旧光進小中学校校舎等利活用事業は、様々な規制を解消して施設の利用範囲を拡大しなければ、今後も利用回数、利用者数の増加は難しいだろう。

- ・別海町の青年団体は、世代を超えて地域が一体となる素晴らしい活動を行っている。

根室管内で唯一の青年団体であるので、活動が継続するように協力していただきたい。

- ・子供の運動能力を高めるためにも、スポーツ少年団活動が活性化・拡大するような取組を行っていただきたい。

- ・総合スポーツセンター施設の長期的な改修計画を作成し、関係団体等に示すことが必要である。

(3館共通)

・コンサート等の事業については、町外の有名な人を招く以外に、地元の人達による開催も検討していただきたい。

・公民館は、地元産業を体験できる場が提供できる機関なので、地域を超えて子供達が参加できるイベント等は検討できないか。

・郷土芸能の発表会を継続していただきたい。

(西公民館)

・家庭教育学級が実施できたことは評価できる。今後も継続していただきたい。

(図書館)

・利用者が仕事後でも間に合う開館時間や開館日数の設定について検討が必要である。

・公民館の乳幼児母親家庭教育学級(すくすく)に図書館職員が出向いて行う活動について、積極的に行っていただきたい。

・古本市について、図書館内の会場が混雑しているので、別の場所での開催も検討していただきたい。

(郷土資料館)

・館内の資料等について、職員が自作する等の工夫が評価できる。

・学校の授業の状況や郷土資料館までの距離等の課題はあるが、学校と連携を深める方法を検討していただきたい。

(生涯学習研究所)

・学びの木には、別海町の基幹産業に関する内容を加えることが必要である。

(6) 教育委員会各課・施設の事業実績

(以下各課・施設の報告書)